

平成29年司法試験 合格体験記

平成27年度修了（未修コース）竹尾 和晃

先日、お世話になっている教授から、「竹尾はロースクールに入ってから変わった。伸びた」という言葉をいただきました。自分ではよくわかりません。誰よりも熱心に勉強した、とはいえません。周囲には、もっと熱心で優秀な同級生や先輩・後輩がいました。彼（彼女）らに比べれば、私の法務研究科での毎日は努力と呼べるものであったのかも疑わしいです。がんばったことといえば、法務研究科の授業についていくことくらい。

というわけで、法務研究科での日々を平凡に過ごしていただけですから（実はこれがコツかもしれません）、合格の秘訣みたいなものについて特筆すべきことは余りありません。ただ、方法論を考えるのが好きらしく、勉強方法を試行錯誤していました。好きな作家の本を読んで、教訓じみたものをよくメモしていました。予習の途中に、これは教訓になりそうだとひらめいて、脱線して考え込み、予習が全然進まないこともありました（これは思考錯誤）。

教授に勉強方法について、何をしたらよいか尋ねたことがあります。教授からは、百選は全部読んだか、シラバスの演習書はすべて解いたか、授業の基本例題はスラスラ答えられるようになったか、といった問いが返ってきました。私の答えはいずれもノーでした。「すべきこと」は「まだしていないこと」だったのです。

自分で目的をみつけて、手段を模索することに勉強の楽しさがあると思います。そうやって過程を楽しむことが試験勉強を続ける心理的技術かもしれません。続けているうちにいつの間にか合格していました。おもしろいことが目的のための遠回りになることもあります。それはそれで得たものがあって、無駄ではありませんでした（そう信じたい）。遠回りだけれどおもしろいことがあるということを知っただけでも儲けものです。

私の成長を見守ってくださり、導いてくださった教員の方々、尊敬すべき友人、支えてくれた人たちのおかげで、道中を楽しむことができました。深く感謝を申し上げ、私の合格雑感とさせていただきます。